

こんにちは 山田耕平 です

2019.6.6 No.337

このニュースへのご感想
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

<http://yamadakohei.jp>



西荻地域の道路拡幅・駅南側再開発問題等について一般質問

住民合意の無い道路整備は中止を

6月3日、杉並区議会第二回定例会で一般質問に立ちました。西荻窪地域の道路整備と駅南側再開発問題、阿佐谷駅北東地区まちづくりについて、区の姿勢を正しました。

商店等の立ち退き相次ぐ

西荻窪地域に重大な影響を与える補助132号線の道路拡幅計画の動きが加速しています。



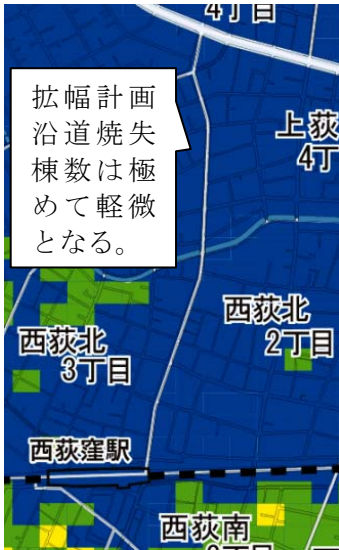
議員3期目、最初の一般質問。

この計画は、既存の11m道路を16m、場所によっては20mに拡幅するものであり、計画沿線の商店や住宅の多くが立ち退き迫られることになるものです。

防災上の根拠が崩れる

区は道路拡幅の必要性を防災性の向上やアクセスルートの確保等と説明しています。

一方、道路整備の必要性を証明する具体的なデータは極めて不十分です(右下)。



杉並区地震被害シミュレーションより

画焼失は極めて軽微
計画沿道棟数

今年度の事業認可申請を前にして、皆さん手続きで、あり、問題です。

必要性の根拠が崩れる事態

1. 延焼遮断帯の必要性を強調しながら、東京都の「防災都市づくり推進計画」において「整備地域・重点整備地域」にも指定せず。
2. 当該路線沿道は地震被害シミュレーションのいずれの条件でも50メートルメッシュ内焼失棟数が0-1 旨未満の青のエリア。
3. 災害発生時に「青梅街道」と防災拠点「東京ガス西部支店」の相互連絡道路としてきたが、当該事業所は統廃合の対象に。
4. 道路拡幅が予定されている地域の交通量調査では、経年変化で減少傾向。
5. 今年度中に事業認可申請を進めるとしながら、道路整備にかかるコスト(総事業費概要)や効果検証を全く示せず。

計画見直しを求める声多数 3633筆の署名を提出

皆さんの手続きが明らかであるのにも関わらず、区は今年度中に事業認可申請を進め、来年度の夏頃には事業認可を取得する意向を示しています。住民に対する説明責任も果たさず、住民合意も無いまま計画を強行することは許されません。

区の極めて乱暴な道路拡幅方針に近隣住民から計画見直しを求める声が急速に広がり始めており、区議会には3633筆の陳情署名が提出されました。この問題はTBS「噂の!東京マガジン」でも報道されています。住民合意の無い道路整備を止めるべく全力を尽くします。

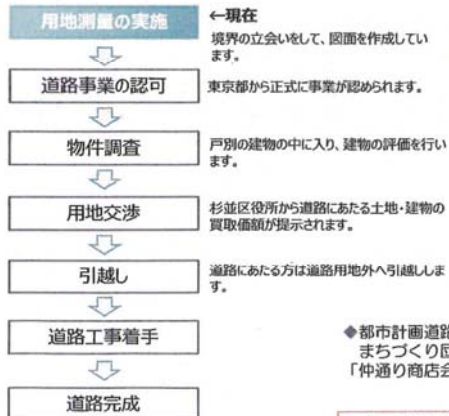
道路拡幅計画が西荻南側再開発を誘導

都市計画道路補助第132号線について

7

杉並区役所が都市計画道路補助第132号線の整備を進めています。

道路事業の流れ



◆都市計画道路整備により
まちづくり団体地区に面する「西荻窪銀座会」、
「仲通り商店会の一部」が道路になってしまいます！

まちづくり団体では、道路にあたる地権者の皆様が住み続けられるまちづくりを目指し、検討しています。

同団体の「西荻窪駅南口の課題とまちの将来像について」とする報告書では都市計画道路整備を明確に位置付け、まちづくりの構想を示している。

団体の活動状況（拠点整備）

- ・活動区域内の地権者はどのくらいか。→地権者は約60名（うち団体メンバーは15名）。
- ・ニュースを定期的に発行していく。（毎月定例会開催）
- ・明確なものが出来てないので反対意見もでていない（他の人が賛成なら賛成、積極的にやっつけようという状態でもない）。
- ・団体としては、法定の再開発を目指す。→小さい規模にすることもありうるが、大きい再開発を目指す。
- ・西荻まちづくり懇談会もあることから、区には今後も相談させてもらいたい。
- ・定期的に報告を入れていきたい。

同団体は新たな団体登録を目指し申請手続きを進めている。その際「大きい再開発を目指す」と明言。

西荻窪駅南側の再開発については、これまでも計画が浮上する度に、近隣住民の西荻の街並みを維持してほしいという広範な声が巻き起こり、計画が進んで来なかった経緯があります。西荻窪のまちの将来のあり方は、デベロッパー主導ではなく、地域住民によって検討されるべきです。

まちのあり方は
住民が決めるべき

今週のコマ

田中区長 本会議場で爆睡 区長の資格なし！

5月31日、杉並区議会本会議において、田中区長が爆睡していました。まさに緊張感ゼロ、酷過ぎる実態です…。

傍聴者からは給料泥棒との厳しい指摘もありました。区長の資格が厳しく問われます。



傍聴者から区長の爆睡写真を提供されました。

大手デベロッパーが再開発を主導 道路拡幅予定地の地権者へ働きかけ

補助132号線の道路拡幅計画を契機として駅南側再開発の動きが活発化しています。党区議団の情報公開請求により、道路拡幅計画と一体に駅南側の再開発に向けた動きが進められていることが明らかとなりました。

この間、西荻窪駅前地域のまちづくりを検討する団体「西荻窪駅南口まちづくり団体」が結成されました。同団体の活動は、補助132号線が第四次優先整備路線に位置付けられたことを捉え、計画沿線を中心に戸別訪問によるアンケートの回収等が行なわれています。その中には「都市計画道路権利者を重点としたアンケートの回収」「都市計画道路の内容については杉並区役所へも確認の上、配布することとした」等、区行政になりかわるよう、都市計画道路の地権者への働きかけも行なわれています。

都市計画沿線で地権者変更相次ぐ



当該エリアの全ての不動産登記事項の調査を実施。その結果、都市計画道路沿道を中心に複数の株式会社による土地の売買が明らかに。※青の点線部分が都市計画道路計画線の概略図。